

家康伊賀越え逃走路[堺～京田辺(草内)]

■堺(妙国寺)―住吉大社―長居・鷹合―針中野―平野・加美―久宝寺―八尾・高安

■久宝寺―八尾・高安 ～ ～ ～ ～ ふこうの池―深野・北条―住吉平田神社
 山のネキ、恩智川を舟で北上 (深化緑地) (野崎) (四條畷)

江戸時代、17世紀になると、河内での綿栽培や木綿生産が盛んであったことはいくつかの記録で明らか。寛永15年(1638)に成立した『毛吹草』という本には、河内の特産のひとつとして「久宝寺木綿」が紹介され、貝原益軒が旅の記録として元禄2年(1689)に書いた『南遊紀行』によれば「河内は綿を多く栽培し、とくに東の山のふもとあたりが多く、その綿から織った山根木綿は京都で評判となっている」

18世紀のはじめ、1704年(宝永元年)に大和川が付け替えられると、それまでの川床は畑として生まれかわり、綿作りがますます盛んになり、木綿織りはさらに発展。18世紀中ごろの久宝寺村(現八尾市)の田畑の作付状況の記録によれば、村の耕地の7割に綿を植え付けたと記され。また八尾や久宝寺などの在郷町や、周辺の村々に木綿を扱う商人たちが増え、仕入れや販売の競争がはげしくなる。宝暦5年(1755)には、八尾の木綿商人の仲間と、高安山麓の木綿商人仲間が、商売の取り決め、(宝暦5年正月「山の根き組定書」西岡文書、八尾市史史料編)。

■住吉平田神社―東高野街道北上―東寝屋川・打上付近右―山根の道―妙見の道・梶ヶ坂―星田妙見宮
 ・住吉平田神社(三牧宮司)と星田妙見宮(和久田宮司)は、知り合いで道案内人をだす

■星田妙見宮―私市・森・神宮寺―倉治―穂谷―尊延寺―宇頭城―普賢寺谷・多々羅―興戸・草内

- ・倉治～穂谷の逃走路にふさわしい道を7/14に確認した
- ・星田から穂谷の最短距離であるかいがけの道(傍示経由)は、険しい
- ・槍越えの道について、現在では、不可能である。明治の測量図では、興戸まで続いているが、戦国時代は、どうであったのか確認が必要
- ・穂谷で普賢寺新八に出会ったなら、穂谷～尊延寺～宇頭城を通過する
- ・尊延寺地域の大きさに注目、道路の左右、普賢寺地区の北

家康伊賀越え逃走路[堺～京田辺(草内)]

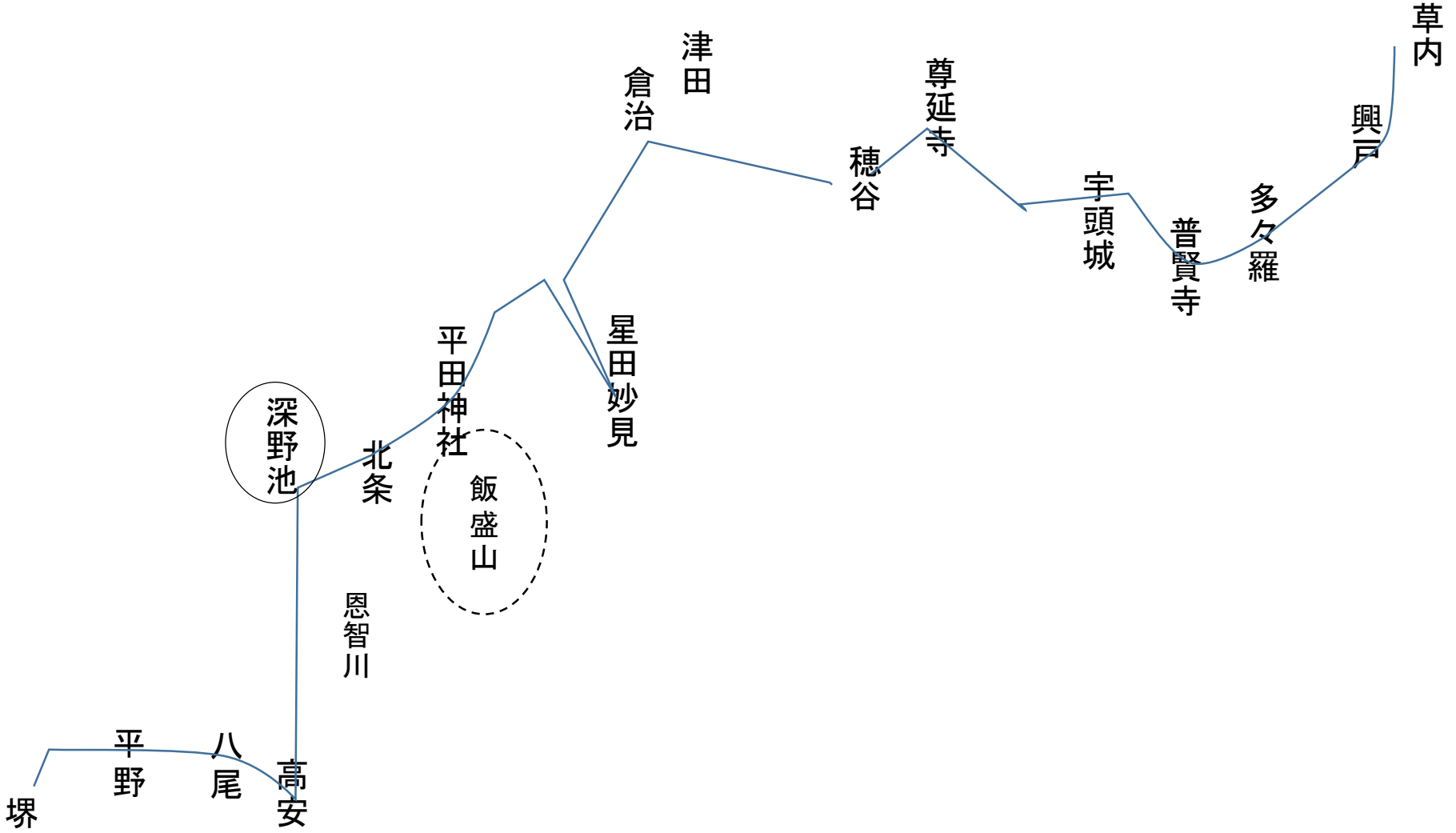
住吉平田神社—東高野街道北上—東寝屋川・打上付近右—山根の道—妙見の道・梶ヶ坂—星田妙見宮

住吉平田神社(三牧宮司)と星田妙見宮(和久田宮司)は、知り合いで道案内人をだす。

陸路	—————
聯路(れんろ)	- - - - -
間路	⋯⋯⋯



家康伊賀越え逃走概略図



家康伊賀越え逃走路と時刻[塚~宇治田原(郷之口)]

日時	通過場所	距離 km	時刻	出来事	
6/2 5時	塚(妙国寺)	} 3.2		信長に御礼の為に京都へ	↑ 逃走ではない
(現7/1)	住吉大社・長居				
	平野・久宝寺・八尾	13.7	10時		堂々と通過
	高安(山のネキ) 恩智川(舟で北上)	10.6		恩智川・・・山のネキ(山根着川)	↓
	ふかうの池(深野)		13時	北条(JR野崎の東)	
14~16時	住吉平田神社	2.1	14時	変を知る、逃走作戦会議、昼食	コース関係者連絡手配(長谷川)
17時	星田妙見宮	6.5	17時	道案内人あり	伝:ひそみの藪(未明?)
	倉治	5.3	18時	倉治~穂谷の山道あり	星田~穂谷最短路?(かいがけの道)
20~ 6/3 2時	穂谷	6	20時	19時 先発隊:新八と出会う 休息、夕食、仮眠	伝:穂谷 白井家宿泊?
	尊延寺(そえんじ)	} 5	3時		※槍越えの道よりも安全で新八がよく 知っている宇頭城への抜け道を選択 したと思われる 新八:お礼の証文をもらう
	宇頭城		5時	地元新八が道案内	
	普賢寺・多々羅・興戸				
6/3 7時	草内の渡し	6	7時	飯岡 小山太郎左衛門:舟を準備 対岸:山口城家臣ら出迎え	小山氏:九寸の七首もらう (小山家家譜図:出島)
10~12時	郷之口	6.3	10~12	山口城で昼食、馬取換え	京都所司代報告書(1650年) 山口城新十左工門末次

家康伊賀越え逃走路検討

■ 着眼・考慮点

1. 地形・・・当時と現在の違い
 - ①山、川、池には、変化が少ない
 - ②道・・・昔は、幅が狭い、現在の府道は、昭和以降
2. 逃走には道案内人がおり、手助けした者がいる
 - ①長谷川秀一(信長の家来)は、人的ネットワークあり(大和・宇治田原・信楽に有力な知り合い・協力者を持つ)
 - ②住吉平田神社(四條畷):三牧家神主が妙見宮(星田):和久田家神主を紹介
平田神社:石山の合戦で信長が休憩場所に使った
 - ③京田辺のところは、だれもいないが、ぼったり出会った普賢寺の百姓新八、草内の渡しを手伝った飯岡の小山太郎左衛門(家系図)は土地に伝わること
3. 時間的なこと
 - ①逃走期間は、3日間。(公式記録の徳川実紀は6日間。権力者の都合の良いように歪められている)
 - ②宇治田原の新十左エ門末次の家譜(1650年:京都所司代報告)
6/3 10時 宇治田原到着、6/3 12時 山口城で食事 → 信用し、逆算すると → →
6/3 8時頃 草内の渡し、6~7時には、家康一行は草内の渡しに到着
 - ③6/2 4時 本能寺の変起きる → →
8時 茶屋信長自刃と知り、12時 交野(星田):本多に伝え、14時 飯盛:家康に伝わる
逃走路検討会議、17時 星田妙見宮
5時 家康堺(妙国寺)出発、
4. 堺～四條畷までは、武者行列
四條畷以降が逃走となり、間道、抜け道に行く
5. 家康、老臣が馬に乗る、その他は、歩行
6. 八尾街道を歩いた報告:住吉神社～久宝寺 3時間、ルート明確
明治41年陸軍全国測量地図
7. 京田辺周辺の明治後年の地図(穂谷・尊延寺・天王・集落の大きさ、たなべの小ささ)

家康伊賀越え逃走路検討

1. 石川忠総留書

石川忠総(－1651、伊賀越えに同行した大久保忠隣次男、父、近親同行者から聞く)
 堺－平野－阿倍－山ノねき－ホタニ－尊念寺－草地－宇治田原

2. 西井長和説(星田郷土史家、1982年伊賀越逃走記、土地の伝承に基づき組立てた)

堺－柏原－船で河内湖を渡り、深野池東岸(北条)－飯盛山山麓－住吉平田神社
 －妙見宮－ひそみの藪－西庄田－狭戸(せぼど)－穂谷－興戸－飯岡－井手－和東
 －信楽 ※かいがけの道は、星田～穂谷の最短路として浮上(あるブログ)

3. 徳川実紀 江戸幕府公式記録(19世紀後半、家康の記録は、東照宮御実紀)

逃走路としては、武徳編年集成を参考にして記述。
 権力者の都合のよいように歪められている。6日間の逃走。
 飯盛山の麓、河内の尊圓寺村、山城の相樂山田村、木津川渡し

4. 泉堺紀事 柏崎永以(－1772、江戸中期国学者)、日本風土輯記、古今沿革考

守口、佐多天神(萱島)、河内国交野郡穂谷村尊円寺村、宇津木越、
 山城国相樂郡普賢寺谷、山田村

5. 信長公記 太田牛一(右筆、武将・官僚)、信長公式一代記(1589)、記述極少

然るに、徳川家康公、穴山梅雪、長谷川竹、和泉の堺にて、信長公御父子御生害の
 由承り、取る物も取り敢へず、宇治田原越えにて、退かれ侯ところ、一揆どもさし合ひ、
 穴山梅雪生害なり。徳川公、長谷川竹、桑名より舟にめされ、熱田湊へ船着なり。

家康伊賀越え逃走路検討

6. 武徳編年集成 木村高敦（1741、幕臣）、家康伝記、偽書、訂正・書替し吉宗献上
 - 6／2 森口の辺り、変を聞く
普賢寺谷の南相楽郡山田村に泊、梅雪、神君を疑い別れその家来が、案内人の銀の鐙を奪い、土人が梅雪を草内村で殺害
 - 6／3 木津川、長尾村の八幡山宿泊
 - 6／4 石原村、白江村、老中村、江野村、呉服大明神の神職、服部貞信、多羅尾丸柱宮内の館に止宿
 - 6／5 伊賀、柘植、鹿伏兔 止宿
 - 6／6 伊勢白子の浦 碧南郡大浜着岸(角屋の大船)
7. 枚方の歴史(馬部隆弘ほか、2013年、**石川忠総説推挙**)
堺—生駒山麓—東高野街道—山根街道—津田—尊延寺—田辺街道—山城
～**山中に入り(山岳修験宿坊・往来あり)**～**津田郷内穂谷・尊延寺**～
8. 新十左衛門末次京都所司代報告書(1650、山口城家臣、新家家譜)
先年権現様泉州堺ヨリ御国へ御下向成サレ候御道筋、河内地ヨリ**山城普賢寺谷ヲ御越工成サレ**、草内村ノ渡ヲ御越成サレ候。
権現様宇治田原御通りハ天正十壬午年六月三日ノ**巳ノ刻**、山口本城ニテ御膳ヲ召上ラレ**午ノ刻**出門遊バサレ、信楽越エニ御通り成サレ候、
 禅定寺文書(1582.6.5 山口城主が、家康一行に対する禅定寺の取計らいにお礼)
 奥田家家系図(山口城の奥田仁義が手伝う)

家康伊賀越え逃走路検討

9. 川崎記孝(2002、家康と伊賀越えの危難、伊賀郷土研究)

堺—平野—飯盛—枚方—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城—山田—
甲賀山中—信楽—小川城—御斎峠・神山—丸柱—石川—河合—柘植—鹿伏兔—関—
亀山—庄野—石薬師—白子—那古(長太)～大浜—岡崎

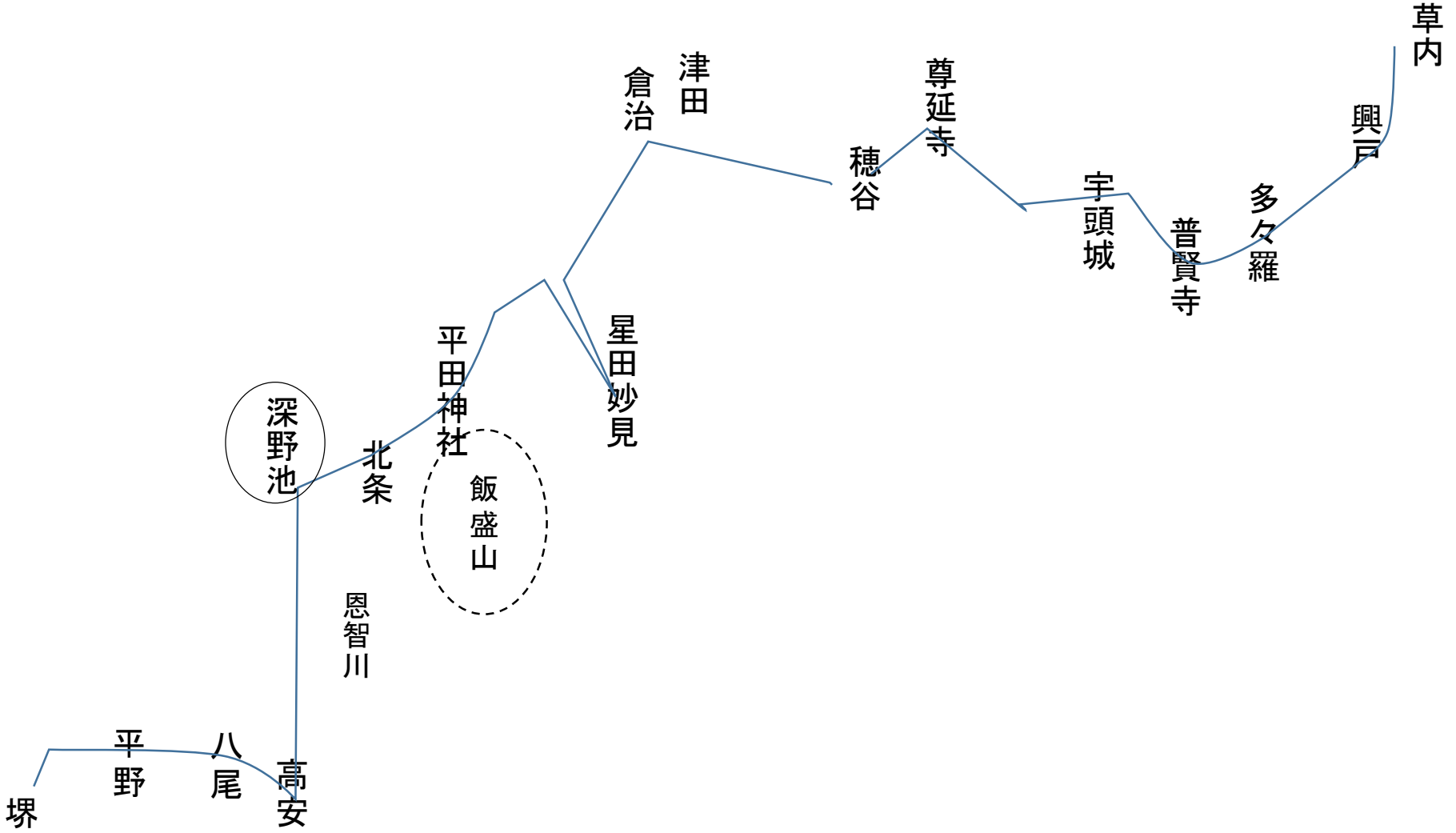
10. 池田裕(2005、忍者研究家)

堺—阿倍—平野—山のねき—柏原—飯盛山麓—星田妙見—津田—穂谷—尊延寺—
氷室—天王—普賢寺—水取—多田羅—興戸—草内—長尾村八幡山—石原村—
郷之口—山田村—裏白峠—信楽—小川城—桜峠—神山—丸柱—音羽—河合—
御代—柘植—加太—白子～大浜—岡崎

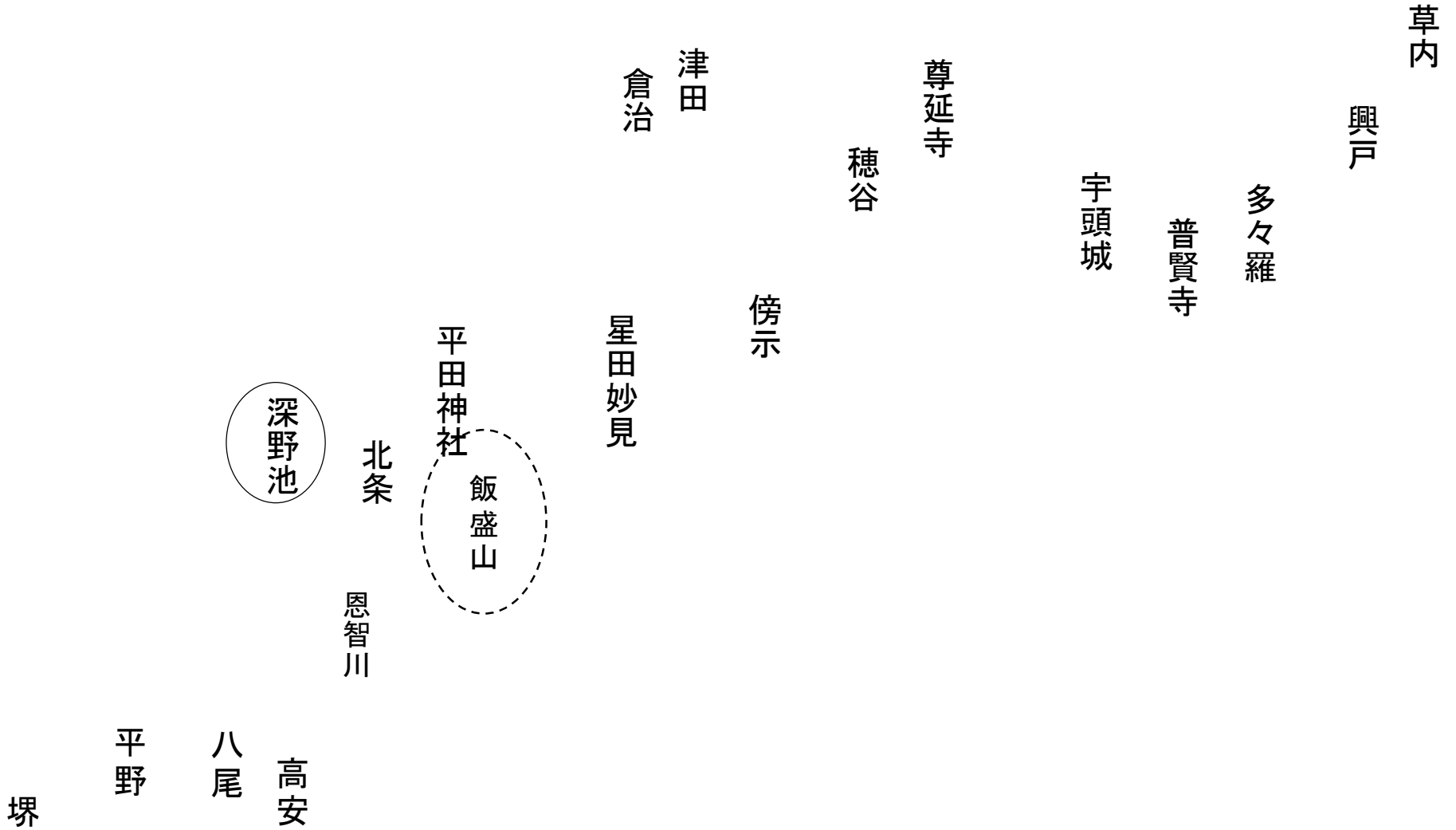
■整理してみると、

- A 堺—平野—飯盛—津田—穂谷—尊延寺—草内—郷之口—山口城
- B 堺—平野—八尾—柏原—恩智川—ふかうの池—北条—住吉平田神社—星田妙見—
津田—穂谷—尊延寺—宇頭城—普賢寺—多々羅—興戸—草内—
- C かいがけの道 —傍示—穂谷—尊延寺—宇頭城—普賢寺—多々羅—興戸—草内
- D —穂谷— 槍越え —興戸 —草内
- E —穂谷—尊延寺— 河内峠 —草内

家康伊賀越え逃走概略図



家康伊賀越え逃走概略図



家康伊賀越え逃走路[堺~宇治田原(郷之口)]

日時	通過場所	出来事		津田通過説
6/2 6時	堺(妙国寺)	信長に御礼の為に京都へ	↑ 逃走ではない 堂々と通過 ↓	
(現7/1)	住吉大社			
	平野・八尾			
	恩智川(舟:北上)	山のネキ(山根着川)		
	ふかうの池	北条		
10~14時	住吉平田神社	変を知る、大作戦会議	コース連絡手配	
	星田	伝:ひそみの藪(深夜?)		
	傍示(ぼうじ)	かいがけの道	星田~穂谷最短路	●津田 信長津田を攻め恨みあり、 家康避ける?
19時	穂谷	新八と出会う、仮眠休息	伝:白井家宿泊	
	尊延寺(そえんじ)		●出会わなければ 槍峠か	
	宇頭城(うつぎ)	地元新八が道案内	田辺街道(河内峠)	
	普賢寺・多々羅			
6/3 8時	草内の渡し (くさじ)	小山佐太郎:舟を準備 対岸:山口城家来出迎え	九寸の七首もらう (小山家家譜図:出島)	
10~12時	郷之口	山口城で昼食、馬取換え	京都所司代報告書	1650年